

～ アメリカ合衆国の情報通信分野における研究開発動向 およびポスト NGN アーキテクチャに関する実態調査～

調査の目的

米国における 2007 年度の IT R&D に関わる予算動向および第 110 期新議会が同分野に与える影響について分析する。また、フォーカス・トピックとして、連邦政府において重点化されているポスト NGN アーキテクチャに関する動向について把握する。

調査機関、調査方法

IT R&D の動向に関しては、ホワイトハウス内の NITR&D 調整局や関連省庁及び連邦議会を対象に、また、ポスト NGN アーキテクチャに関しては、全米科学財団（NSF）、国立標準技術院（NIST）や関連大学研究機関を対象に、文献調査及びヒアリング調査を実施した。

報告書概要

連邦政府における 2007 年度 IT R&D 関連予算は、米国競争力戦略（ACI）に沿った形で概ね増加すると見られている。また、2008 年度予算に向けた傾向としては、ハイエンド・コンピューティングや国土安全保障に関わる活動などを重視していくように見受けられる。

GENI プロジェクトや Nets プログラムに代表されるポスト NGN アーキテクチャ構築に向けた活動は、NSF による補助金を受け、プリンストン大、ラトガース大、カリフォルニア大などの研究教授などがリードしている。しかしながら、GENI など最先端のネットワーキング R&D 活動に対して、IT ベンダーを含む民間セクターからは、その将来性に対して一部懐疑的な姿勢を示すところもある。

2007 年 1 月

N I C T 北米ワシントン事務所